

学校だより

横浜市情報ネットワーク（ＹＹネット）上に本校のホームページがあります。

URL : <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tookaichiba/>

横浜市立十日市場小学校

令和8年9月30日（水）

緑区十日市場町 1392-1 番地

TEL : 981-0420

FAX : 983-1694

話して伝わる「ことば」のちから

児童支援専任 天池 美紀

楽しそうな子どもたちの声に代わって虫の音が響く時間が少しずつ長くなり、秋分の日を過ぎて、さらに日暮れが早くなってきたことを感じます。10月を迎え、学校生活も半分を終えようとしています。

今年度より児童支援専任となりました天池美紀です。お子さんも保護者の皆様も、さまざまなことを相談したいときの一つの窓口として思っただけければ幸いです。

私が子どもたちから受ける相談で最も多いのは、「友達とのこと」です。

「一緒に遊びたいと思っているけれど遊んでくれない」「話しかけても返事をしてくれなかった」「私の悪口を言っていると友達から聞いた」など、内容はさまざまです。「遊びに誘ってみたの?」「どんな反応だった?」と聞いてみると、実は直接話したわけではなかったり、自分が感じたことだけで判断していたりすることも少なくありません。不安な気持ちが大きくなると、自分の思いを言葉にしよううまく伝えられなかったり、何となく自分から距離を置いてしまったりすることもあるでしょう。しかし、「何となく感じていること」は、言葉にしなければ相手に伝わらないこともあるのではないのでしょうか。

『さかさま おとなのいいぶんと子どものいいぶん』という絵本があります。一つ場面が大人と子ども、それぞれの目線で描かれており、お互いの思いを抱えながら物語が進んでいきます。その本を読んだある子が、「相手が思っていることを想像することは大切だけど難しいね。でも、どうして思ったことを相手に話さないのかな」と話していました。

子どもたちから友達に関する相談を受けたときには、まず状況を整理しながら話を聞きます。そして、自分がどのように感じたのかを確かめるとともに、相手はどう感じたのか、何を思っているのかを考えられるよう支援します。相手の感じ方や思いを理解することで、「思い過ごしだった」「相手も嫌な気持ちになっていたのかもしれない」と気付くことがあります。

その上で、「次に同じようなことがあったとき、どうしたらよいか」を一緒に考えます。子どもたちは、「話しかけてみる」「言い方を変えてみる」など、自分なりの方法を見つけていきます。

子どもたちにとって、言葉で伝えることは難しい場合もあります。最近では SNS が身近にあるため、まずは SNS で伝えようと思うこともあるでしょう。しかし、文字だけのやり取りではニュアンスが伝わりにくく、誤解を生んでしまうことがあります。その結果、さらにトラブルにつながることもあります。そのため、教師が支援しながらでも、直接「話すこと」を勧めています。お互いに顔を合わせて話すと表情や声色などで言葉以上のことが伝わることもあるのです。

お子さんが友達のことを話したり相談したりすることは、ご家庭でもあると思います。ぜひ、お子さんの話を聞いていただき、「先生に相談してみたら」と声をかけてあげてください。主担当、学年担任、養護教諭、児童支援専任、スクールカウンセラーなど、相談できる相手はたくさんいます。

まずは、困っていることを言葉にして話すことから始めてみませんか。そして、自分の思いを伝えるとともに、相手の気持ちも考えながら話せるよう、学校でも支援してまいります。